

国有林における多目的造林機械導入に向けた検討会を開催しました

～ 置賜森林管理署 ～

開催日：令和6年8月21日

開催場所：小国町大字白子沢外3扇平外3国有林69つ林小班

造林事業のうち下刈作業は、皆伐面積の増加に伴い作業面積が増加している一方、作業従事者の高齢化等による担い手不足が深刻化しています。

東北森林管理局では、下刈作業の省力化を目的に筋刈りの導入を進めており、将来的には、機械化による大幅な省力化の実現を期待しており、当署でも管内の伐採跡地において、多目的造林機械を使用した地拵・下刈作業の実演を行い、急傾斜地が多い国有林の現場での実用性について検証・検討を行いました。

検討会には、国有林野職員のほか、県や市町村の担当者、林業事業体の担当者など36名が参加しました。

多目的造林機械（山もっとモット）のメーカーの方からの説明を受けた後、スギ苗間の下刈作業や伐根を粉砕する地拵作業の実演を見学しました。

作業幅が広く必要なことや急傾斜地では作業が困難なことなど、実用化に向けて課題があるものの、植栽方法や苗木の間隔、対象地の選定などを工夫することにより、実用性の幅が広がると感じました。

伐根や灌木を粉砕できることでその後の保育がしやすくなることや、林道除草など造林・保育以外の作業にも活用可能とのことであり、傾斜などの条件により作業可能な区域が半分でも機械化が進めば、省力化が進み、そこから更に作業方法等の工夫や機械の改良が進むことによって、将来的な実用化が期待できます。

当署では、今後も造林・保育作業の省力化について検討して参ります。

※多目的造林機械：林内を走行しながら下刈り等を行う機械で、アタッチメントを変えることにより、下刈りだけでなく、伐根粉砕や残材集材、コンテナ苗運搬といった様々な用途にしようできます。



検討会開催の様子



伐根を粉砕する山もっとモット